

庄南っ子

本来あるべき姿

生徒指導主事 中田 康亮

4月から子供たちの登校の様子を見守っています。これまでを振り返ってみると、子供たちは環境等に影響されながら、いろいろな姿を見せるものだと改めて感じました。

4月当初、進級した喜びや緊張感もあり、集団登校はきちんと一列で、挨拶も元気がよかったように思います。しかし、新しい生活に慣れた6月頃になると、登校の列に乱れがあったり、さえない表情をしていたりする子供が少し増えました。大人も子供も、日々いろいろな出来事や環境の変化に左右され、大切なことだと知っていても、乱れてくるが多々あるものです。特に、子供は大人に比べてありのままにそのような態度を示す場合が多いように思います。

生徒指導の視点で言えば、この変化が現れたとき、「本来あるべき姿」を示すことが大切です。列の乱れであれば、その場ですぐに声をかけます。もし、何か問題を抱えているようなら、話を聞き、子供の気持ちを受容したうえで改善の方向に導きます。また、継続的に見守り、できていることを認めたり褒めたりすることも大切です。1学期、いくつかの班に対して、このような指導を行ってきました。

現在、子供たちは、「おはようございます」と元気よく挨拶をし、校門入口付近を一列に並んで登校しています。これからも朝の様子を継続的に見守り、登校中の歩行や挨拶の指導を続けていきたいと思っています。

さわやかな気持ちに

飼育栽培担当 澤田 早瀬

耐震改修工事のため、今年度は規模を縮小して栽培活動を行っています。低学年はプランターで野菜やあさがおを育てています。校舎西側の畑や花壇の半分は使えませんが、残った花壇を使ってヒマワリやヘチマ等の理科教材、サルビア・マリーゴールド・インパチェンス・ベゴニア等の花を育てています。また、玄関前のプランターにも、同様の花苗を植え、現在きれいに咲き誇っています。

花壇やプランターに花苗を植えるときには、全校児童に声をかけました。約40人の子供たちが、昼休みに進んで手伝いに来てくれ、みんなで協力して苗を植えました。植えた後は、委員会の子供たちが責任をもって水やりをし、大切に育てています。

夏の気温上昇により、花壇の花もプランターの花も生き生きと成長しています。毎朝登校してくる子供たちをさわやかな気持ちにしてくれる花たちです。秋まできれいな花を咲かせてくれるように、手入れを続けていきたいと思っています。

